

生徒指導部通信

令和4年度第3号
令和4年10月28日
文責 中野 秀泰

「居場所」って何だろう？

今回の通信では、「居場所」について、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。みなさんは「居場所」という言葉から、何を想像しますか。「安心ができる場所」、「楽しい会話ができる場所」、「つらい時に避難ができる場所」というような、自分をありのまま受け止めてくれる場所というイメージを抱く人がいるかも知れません。ちなみに、手元にある辞典を引くと、「人が居る所。いどころ。」(『スーパー大辞林3.0』、三省堂)、「いるところ。いどころ。」(『明鏡国語辞典 第三版』、大修館書店)と、やや簡潔に説明されています。

私が居場所という言葉から思い浮かぶものは、実家の小さな喫茶店です。25年前に実家を建て直したときに、叔母のために喫茶店を作り備えました。一度にほんの数人しか入れない小さな店舗で、特別自慢できるようなこだわりの料理やオーディオ装置などは有りません。しかしそんな喫茶店が、不景気や災難に負けることなく、静かに営業を続けています。



この喫茶店には不思議な居心地の良さがあります。このコロナ禍にあっても、お客様がやって来ては、思い思いのひと時を過ごされます。多くの人にとって、ここが「安心ができる場所」であることは間違いありません。お店の様子を注意深く観察すると、お客様とお客様が語り合い、励まし合いながら、頼ったり頼られたりすることができる、一種の共に生きる場所になっているように見えます。オーナーである叔母は、そうしたお客様を見守りながらコーヒーを淹れます。人と人との温かい絆が紡がれていく居場所となっていることが、居心地の良さの秘訣だと言えそうです。



みなさんにとっての「居場所」はどこでしょうか。少し考えてみて欲しいと思えます。平成28年度に内閣府が行った「子供・若者の意識に関する調査」では、6つの場所(<1>自分の部屋、<2>家庭、<3>学校、<4>職場、<5>地域、<6>インターネット空間)について、それぞれ自分の居場所だと感じている割合をみると、<1>自分の部屋(89.0%)、<2>家庭(79.9%)、<6>インターネット空間(62.1%)がトップを占めています。

みなさんが一日の多くを過ごすのは、このえりも高校です。この学校の中にも、自分たちの思いを共有したり、人の役に立ったりできる、とっておきの居場所をいくつも作ってみませんか。みなさん一人一人が居場所の作り手です。まずは、場所や特別な道具のことは考えずに、「こんな居場所がいいな」と思うものをじっくりと考え、身近な友達に伝えることから始めて下さい。

学校生活が残りわずかとなった三年生には、これから先の自分たちの姿を想像しながら、社会の中でどんな居場所を作りたいか、地域のどんな居場所に関わることができるか、時間をかけて考えて欲しいと思えます。こうしたことが、あらゆる人が自分の価値を実感しながら、社会にたくさんの居場所を持つことにもつながっていくはずですよ。